

# Face to Face

## Tobita Dental Clinic

歯科一般/小児歯科/予防管理/口腔外科/インプラント/矯正歯科/審美歯科

11-19 Hirose, Kita-ku, Okayama-city, Okayama-prif 700-0806  
Tel 086-222-3194 <http://www.tobitadc.jp/>



## 最新式 vs 旧式(従来式)

最新式といえばスマートフォン、家電、車などが思い浮かびます。毎年毎年、次から次へと新たな機能や魅力的なデザインと共に発表されるので好きな人にはたまらないようです。私も機械好きですから興味がありますし、時には欲しいな~と思うこともあります。

医療の世界でも、ノーベル賞を受賞した再生医療は最も注目されていますし、人類の歴史を振り返れば機器、材料の開発とそれに伴った新たな技術が日進月歩であることは周知の事実です。

歯科業界においても、私が卒業した1985年頃まで振り返っても、あらゆる面で新商品や技術が開発されてきました。例えば、インプラント、歯周病の再生、保存療法、予防、矯正などなどの変わった点は数限りなくあります。

しかし、その裏側では数年後に跡形もなく消え去ってしまう商品や否定される技術があることを認識して

おく必要があります。私の経験でも大学を卒業した当時のインプラントは京セラ(今や大企業)のサファイアインプラントが主流でした。勤務した医院でも使用されていたので採用した治療法でした。しかし、数年後には跡形もなくなり違ったシステムへと様変わりしました。逆に、1964年に日本人技工士桑田さんが開発した金属焼付けポーセレンは世界中で長年に渡って使い続けられています。

このようなことは多くの業界でこのようなことは当然だとは思いますが、歯科治療の多くは容易に取り替えることが難しく口の中に存在し続けます。このような面から長く歯を使うことを基準とすれば、おのずと最新に対する評価や取り入れる時期を判断する悩みは絶えません。

年齢と共に保守的になっていくのは、このような面があるのではないかと気が付いた今日この頃です。



# Tobita library

## とびた図書館



この2つの写真集は共に普通に生活している日々の日常を撮影されたものです。

服装も表情も普通で緊迫感や悲惨な面を感じられないだけでなく、時には幸せそうな日常が写されています。しかしながら、共に国家権力によって個人の自由が奪われた人々です。

### ■隣(38度線の北)

タイトルどおり、北緯38度の北側で近隣の国、北朝鮮の人々の日々の生活を撮影した写真集です。長年に渡って解決しない拉致被害者と核兵器の問題は我が国にとって身近な事柄です。その他にも、個人独裁、世襲、軍事優先、貧困、脱北、報道規制など、私が知りえる情報からは悪いイメージしか思い浮かびません。また、近隣国なのに観光旅行の対象にならない点も特殊です。

ところがこの写真集には、ごく普通としか見えない(真偽はわかりませんが)人々の日々の生活が写されています。昭和30年代生まれの私にとっては、ちょっと懐かしくも感じてしまう。昔、見たことがあるような日常の風景が垣間見えます。また、人々の表情は豊かで、笑顔も素敵で、はにかんだり、恥ずかしがったり、得意げだったり様々な表情から幸せそうにも見えます。この国で暮らしている人々は普通に暮らしているのかも知れないと感じてしまいます。私の知識から想像していたのとは全く違う面を見たことでちょっと複雑な気持ちになってしまった写真集です。

### ■コダクロームフィルムで見る

#### ハートマウンテン日系人強制収容所

「コダクロームフィルム」は1935年に発売され、世界で初めて商業的に成功したカラーフィルムです。このタイトルに興味をひかれた理由は、口の中の撮影には最も適していると教えられ一時期使用していた思い出があるからです。

余談はさておき、この本は真珠湾攻撃の半年後に、カリフォルニア在住の日系2世のビル・マンボさんがワイオミング州の日系人強制収容所に連行され、1942年から1944年の収容施設内の日常を撮影した写真集です。マンボ一族の暮らしが施設内の風景と共に、お祭り、盆踊り、相撲、スケート場、プールなどの娯楽や施設や様子が写されています。しかも70年以上前としては珍しい鮮やかなカラー写真です。ただし、荒涼とした大地に有刺鉄線に囲まれた施設内に強制的に収容されている日系人の出来事であるということだけが特殊な状況です。戦争の一面として、アメリカに渡った日本人の当時の生活を垣間見ることができました。

book

ここでは、医院で使用しているBGMと待合室に置かせていただいている本を紹介しております。本もCDも私の嗜好ですし、解説はあくまで私の偏見ですのでお許しください。



待合室に置く本の選択は短時間でも気軽に見ていただけるように写真を選んでいきます。

その中でも「旅」と「綺麗な映像」は特に目を引きます。その上、キャッチコピーが「死ぬまでに」と付けばより魅力的に感じてしまいました。25万部突破、Facebookで60万人が「いいね!」、インターネット広告代理店に所属する著者;詩歩(shiho)の「死ぬまでにいきたい!世界の絶景」「死ぬまでにいきたい!世界の絶景 日本編」の2冊には、おススメの季節、具体的な旅行プラン、国内は現地予算、海外は旅の予算が解説とFacebookへ投稿された感想と共に掲載されています。

もう1冊は写真家;三好和義の「死ぬまでに絶対行きたい世界の楽園リゾート」です。リゾート地を中心に掲載されたもので、ベストシーズン、旅のヒントなど一度は宿泊してみたいと思える美しい風景に溶け込んだリゾートホテル掲載が多い点が特徴です。

3冊共に、思わずウットリしてしまう美しい写真が掲載されていますので、こんな絶景はぜひ見たいと思えてしまいました。でも冷静に考えれば、写真のような美しい景色は天候などの条件が整わないと難しいので出会える確立が低いかなと、思わず独り言。まあ、本を見ていい気分になるのであれば十分かもしれませんが、そのうち行きたいと確かに思えた本です。

## ■The PianoGuys

クラシックからポップスのカバー曲が中心の4名のグループです。ただ、少し変わっている点は4人メンバーがピアニスト、チェリスト、映像クリエイター、音楽プロデューサーだということです。つまり演奏2人+演奏しない2人です。そのためなのか、ピアニストはアクロバティック演奏やピアノを打楽器にしたり、チェリストは一人多重奏などの(映像も)パフォーマンスや凝った演出など、一般的なミュージックビデオ以上に視覚的にも楽しめました。しかも、これらのアルバムはCDの価格でDVDが付属していることから、演奏しない2人がメンバーであることが納得できます。

YouTubelにも掲載されていますので興味のある方はぜひ。



music

## 「電動歯ブラシ」を使い続けて15年

私は電動歯ブラシを15年近く使い続けています。その理由は、短時間で楽に歯垢を除去できるからです。また、歯ブラシから電動歯ブラシに換えられた患者さんが良くなっている場合が良くあります。

現在、私は2台の電動歯ブラシを使っています。1台目を使い始めたのは、ある患者さんから「電動歯ブラシはいいのですか?」と聞かれたことがきっかけです。それまで商品を触ったことはありませんでしたが日常的に使ったことが無かったので、一般論しか答えられず悔しい思いをしたからです。

当時の電動歯ブラシは一般的ではなく数種類しか販売されていませんでしたが、「ソニックケア」という新方式の音波歯ブラシが発売されて注目を集め始めていました。しかし、本体2万5千円、替えブラシ3千円と従来品よりかなり高価でした。但し、今までには無い魅力的な商品だったので使ってみることにしました。持つ部分は太く重かったのですが、短時間で歯がツルツルになります。つまり「ソニックケア」は楽に歯垢を落とせる便利な道具であることを実感することができたのです。それ以来、お気に入りの道具として使い続けています。また、予想以上の耐久性にも感心しています。

それ以降、電動歯ブラシに興味を持ち新商品は必ずチェックするようにしてきました。しかしながら「ソニックケア」を超える商品はなかなか販売されませんでした。

そして、やっと2009年に発売されたオムロンの「メディケア」は、「ソニックケア」と同等のパワー（清掃能力）がありながら、本体と替えブラシの価格と、軽さと持ち手が細いという「ソニックケア」の欠点を補われた商品です。これが今も使い続けている2台目電動歯ブラシがで、最もおススメする電動歯ブラシになりました。

この2台を今も使い続けているのは、耐久性とアフターケアを確認するためではありますが、私にとって毎日使う体に馴染んだお気に入りの道具になっています。

繰り返しになりますが、電動歯ブラシはお役に立つ長く使える道具ですので、ぜひご購入ください。ただ、振動がどうしても馴染めない方もおられますので、この点はご了承ください。

ちなみに、どの商品が良いかは当医院のホームページにも掲載しています。



私が長年使っている  
2台の電動歯ブラシです

